

入退院支援室より

入退院支援室室長 平島 雅彩

当院の入退院支援室は、今年で設置から3年目を迎えました。この間、地域の皆様や患者様、医療機関・介護施設、行政、院内の多職種と連携を深めながら、「医療への安心」「暮らしの支え」を形にできるよう取り組んでまいりました。まだ道半ばではありますが、ご協力くださる皆様のおかげで少しずつ信頼関係を築くことができていて、心より感謝申し上げます。

この7月から新たに社会福祉士1名を迎える、現在は社会福祉士2名と看護師1名の体制となりました。医療・福祉・看護の視点を組み合わせることで、退院後も含めた継続的な支援を円滑に行えるようになっていました。治療だけでなく、その人らしい暮らしをどう守るかと共に考え、切れ目のない支援を実現することが私たちの使命です。

当院のある地域も少子高齢化・人口減少という課題を抱え、医療・介護を取り巻く環境は厳しさを増しています。病院だけで完結する医療から、地域全体で支える医療への転換が求められる中、入退院支援室はその「つなぎ目」として、病院と地域が向上を目指してまいります。



また、院内スタッフや私たちの業務は独立したものではなく、すべてがつながっているということです。医師、看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、検査技師、放射線技師、管理栄養士、ケアワーカー、事務職、そして入退院支援室を含む全職種が力を合わせることで、ひとつの命や家庭を支え、地域の力となっています。各職種の専門性と情熱が結集することで、患者様とご家族の「安心」と「希望」が生まれるのだと思います。

私はこれらの人を想い、地域に必要とされる存在であり続けたいと考えています。患者様や住民の皆様が「この病院があつてよかったです」と感じ、私たち自身も誇りを持てるところです。病院を目指し、歩みを進めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

「はびねすマキノ」は今年の5月で開業10周年の節目を迎えました。日頃よりマキノ病院に通院されている方は、「はびねすマキノ」は見聞きされていることでしょう。「マキノ病院の横にある、べたつとした建物」そう、あれです。

「小規模多機能型居宅介護事業所はびねすマキノ」は、ヘルパーがご自宅に行ってお手伝いする「訪問」と、ショートステイのような「泊り」、この3つのサービスを一體的に行なっています。料金は訪問・通いの利用回数に関係なく月額制ですが、食事・泊りは利用回数に応じて頂いております。料金は訪問・通いの利用回数に関係なく月額制ですが、食事